

伊仙町町制施行60周年記念誌

いせん60年のあゆみ





目 次

町長挨拶	4
教育長挨拶	5
伊仙町概要	
歴史	6
自然	10
健康増進	14
福祉	15
子育て	16
学校教育	18
社会教育	20
伝統文化	23
歳時記	28
まちの特産品	30
伊仙町のおいしいお店	34
伊仙町の絶景	36
伊仙町の偉人	38
伊仙町の議会	41
伊仙町の宿泊施設	42
伊仙町の公共施設・公園	47
記念作文（松岡天真さん）	54
記念作文（牧園優菜さん）	55
60年の軌跡	56
記念作文	91
数字で見る伊仙町	102
町民憲章	122
伊仙町へのアクセス	123

伊仙町町制施行60周年に寄せて



伊仙町長
大久保 明

昭和37年1月1日、伊仙村から伊仙町へ移行し、町制施行60周年という節目を迎えました。この節目を町民のみなさまと共に喜びを分かち合えることは、今日に至るまで、郷土を愛し支えていただいた町民のみなさまをはじめ、本町の発展にご尽力いただいたすべての方々、そして先人のたゆまぬご労苦の結晶であり、感謝の想いを抑えることができません。

60周年といえば人間に例えると還暦です。昔は寿命が短かったため、還暦といえば長寿に値しましたが、現代、また、長寿世界一を2人も輩出した伊仙町において、60歳は現役であり、これから益々輝く年齢でございます。

町制施行60周年を迎えるにあたり、「世界に誇る環境文化と住みたいまち日本一へ」をスローガンに定め、職員一同各種施策に取り組んでいるところであります。

また、本町において、町制施行時、約16,000人余りいた人口が6,360人（令和5年1月1日現在）と減少しており、定住人口・交流人口の増加は、今後より一層力を入れていく課題であります。そのためにも「第2期伊仙町まち・ひと・しごと創生総合戦略」で掲げている4つの基本目標

1. 地域の人的関係資源を基盤にした集落・小学校単位のまちづくり

2. 子宝日本一の伊仙町で支えられた結婚・出産・子育て教育の実現

3. 多様な形で関わる「関係人口」を地域の力へ

4. 稼ぐ地域を作り、安心して徳之島へ戻れる雇用の創出の実現に向けて全力を尽くして参ります。

伊仙町に愛着と誇りを持ち、まちの未来を町民の皆様と共に考え、「町民総参加のまちづくり」の理念を基に、先人が築いた歴史や伝統を継承しながら、真摯に時に大胆に町政運営を行い、伊仙町から徳之島、そして奄美全体の発展に寄与することを願い、伊仙町町制施行60周年記念のごあいさついたします。



伊仙町教育委員会
教育長 伊田 正則

伊仙町町制施行60周年に寄せて

（未来へつなぐ）

私たちのまち伊仙町は、昭和37年1月1日に伊仙村から伊仙町になって60周年、「還暦」を迎えました。この記念すべき年を迎えることができましたのも、ひとえに今日の伊仙町の礎を築いていただいた先人をはじめ、ふるさと伊仙町を愛する町民のみなさま、郷友会の皆様方や、関係者各位のご理解とご協力のたまものと深く感謝申し上げます。

今日までの本町の教育界のあゆみを顧みますと、昭和28年の祖国復帰が達成され、教育に関しても、長年にわたって荒廃を余儀なくされていた郷土の教育が、本土並みの行政組織に改められ、県教育機関の出先機

関である大島教育事務所が設置されています。新しい改善諸施策等が実施され、郷土の教育が徐々に一新されてきました。時を超え今日、国の施策である「GIGAスクール構想」により、児童・生徒・職員に一人一台PC端末が支給され、オンラインによる学習やタブレット活用によるICT機器の活用能力が向上し、首都圏と地方の教育格差のない学習環境整備が進んでいます。

先人たちが、苦しい中でも明日への希望を持ちつづけた、「夢をあきらめない心」や「向学愛知」の精神を「不易」なものとして繋ぎ、時代の変化とともに変わっていかなくてはならないICT活用能力の向上等を「流行」としてとらえ、伊仙町の子どもたちが、Society 5.0の時代に対応し、グローバルな時代に夢を持ち自分らしく生活していけるよう育てていきたいと考えます。

徳之島は、先人たちが守り継いできた、豊かな自然と多様な生物が生息・生育していることが認められ、令和3年7月に「世界自然遺産」に登録されました。徳之島で育ったことを誇りに、自己肯定感を高く持ち、世界へと羽ばたいていける人材を育てられるよう邁進していきたいと考えます。これからも我が郷土、伊仙町への格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。60周年のご挨拶といたします。